

JAPANESE DRUMS 曲目解説 (2002 年 ARC より発売)

1) 力丸

作曲：高篠雅也、編曲：和太鼓祭座、1996

船にエンジンなど無い時代、船に太鼓を載せ、その音に櫓の動きを合わせて、効率よく前に進めていた。この太鼓役割は重要で、櫓の漕ぎ手を減らしてでも、太鼓と太鼓の叩き手を船に乗せました。東京の北部、秩父地方には、太鼓を船に乗せて演奏する、芸能秩父屋台囃子という演奏の形があります。我々はこれをモチーフにし、和太鼓祭座を船に見立てて、海の物語を表現しました。

2) 津軽じょんがら節

原曲・作曲：不祥、編曲：山口成史

日本の本州最北端、青森津軽郡に伝わる伝統楽器：津軽三味線。極の発生は 15 世紀頃とされています。極寒の地方で、いみじくも人々の厳しさと心豊かに生き抜く人々を表現しています。その内に持った激しいエネルギーを聞いてください。

演奏は津軽三味線の名手、山口成史のソロ演奏です。

3) 男、ここにありき

作曲：高篠雅也、編曲：和太鼓祭座、1998

伝統的に男性は力強い存在であるとされてきました。この曲はそうした力強さをテーマにしています。男性トリオによる、太鼓でする喧嘩に聞こえるでしょうか。もちろん喧嘩ですから、二度と同じリズムは叩けません。即興です。

4) 傾奇御免状 (かぶきごめんじょう)

原曲：配島邦明、作曲：高篠雅也、編曲：和太鼓祭座、2000

侍が活躍した 15 世紀。このころ妙なサムライ、前田慶二郎利益がいた。彼は雲のように生き、雷のような男で、太陽のようでもあった。彼はあえて負ける戦を好み、戦いをゲームだと思っていたが、大胆な発想と勇気で戦争を切り抜けていた。豊臣秀吉は、この男を気に入り、唯一「傾奇御免状」という許可証を与えた。これは突拍子も無い御法度破りでも許そうというものである。和太鼓祭座は、新しいジャンルを開拓する上で、前田慶二郎のように生き抜きたい、そんな思いから作られた、破天荒な曲です。

5) 鬼も泣く

作曲：高篠雅也、編曲：和太鼓祭座、1999

福井県武生市中新条町にある神社は、別名鬼神社と呼ばれている。鬼とは、日本では古くから、どう猛で恐ろしい地獄の神であり、災害をもたらすともされていた。しかし、人間の母が子をあやす歌を聞いて以来、優しさをもつようになり、災害を起こさなくなったという伝説があります。その伝説を太鼓にのせて演奏しています

6) 玉屋！鍵屋！

作曲：高篠雅也、編曲：和太鼓祭座、2001

中国から伝わった火薬から、日本独特の文化となった「花火」。古くから夜空を彩る大きな花火を鑑賞する際、「玉屋」「鍵屋」とかけ声かけて雰囲気盛り上げました。このかけ声は、同時に、この花火を打ち上げる人々の称賛という意味を持ちます。私たちはこの気持ちを子供達に伝えたくて、和太鼓祭座の子どもメンバーにこの曲を託しました。演奏者七人の平均年齢は8歳。

7) 一陣の風

作曲：高篠雅也、編曲：和太鼓祭座、2001

津軽三味線と和太鼓の「コラボレーション」です。これから始まるいくさに武者ぶるいし、そして戦場に吹く風を表現しています。

8) 楽（がく）

作曲：高篠雅也、編曲：和太鼓祭座、1998

高音域の金属打楽器、鐘が主役です。和太鼓というと太鼓ばかりが目立ってしまうなか、本来重要な鉦。曲調をリードし合図の役目も果たします。きれいな音色でありながら、ひっそりと咲く草花のような存在です。鉦と、中国より伝わったシンバルを小さくしたようなチャップを主役にし、太鼓の音色と絡んだ曲です。

9) 大楽寺囃子

原曲・作曲：不祥、16世紀

東京都八王子市大楽寺町。この名の由来は、様々な宗派の仏教寺院が点在する事と、全ての人達の極楽浄土を願ってである。この曲は、死んだ者を追悼し、極楽に行けるようにと願う意味があります。曲中繰り返されるリズムには、これに合わせて魂が踊っている様子を表現しています。

10) 世に万葉の花が咲く ～ メドレー ～

作曲：高篠雅也、編曲：和太鼓祭座、2001

和太鼓祭座の持ち曲メドレーで編曲に編曲を重ねた曲。津軽三味線を含む9種類の音色の組曲で、和洋折衷ひきこもごも多国籍サウンドに仕上げました。

11) 祭座の唄

作曲：高篠雅也、編曲：和太鼓祭座、1996

その昔、日本では思い石材や材木などを運ぶ時に大勢で音頭をとりながら運んでいました。この音頭が声楽音楽に発展し、その代表曲が大工の「木遣り唄」です。我々は太鼓という大きな楽器を伴奏に、和太鼓祭座の想いを唄にしました。

歌詞：

「ここにおいでの皆様へ 今日という日をありがとう 帰り際には気を付けて
ながなが飽きずにありがとう

人の心の希薄さに こごえてふるえる時もあるそれでも信じてつまづいて
熱いやカンを触れて知る

生まれや手足や肌の色 そこから何かがわかるのか？ 同じ大地に立ちながら
生きてるだけで丸もうけ

野に咲くハコベの花のように 踏みにじられてもまた咲く花でいろ！
いずれ桜と肩並べ... 咲いてやる

遠山金さん肩の絵は桜吹雪と語られて、実のところは生首で真実知りたきゃ
この眼（まなこ）真実見抜く眼濁ってる、真実知りたきゃこのまなこ

祭座足りないものだらけ、でも力の限りに叩きます。つらい稽古も何のその、
きっと咲きますつぎ木でも

祭座ここまでこれたのは、敢えてここでは言えないが、支えあつての人ならば
必ず咲きますつぎ木でも

野に咲くハコベの花のように 踏みにじられてもまた咲く花でいろ！
いずれ桜と肩並べ... 咲いてやる

ここにおいでの皆様へ 今日という日をありがとう。帰り際には気を付けて
またの会う日を楽しみに」

CD：

録音：2001年12月16日 東京都東大和市 ハミングバードにて

録音ディレクター：広瀬周平 録音技術：池田高史

マスタリング：池田高史（協力：原建久、福井県三国 火の太鼓 Kuni さん）

アート&マスタリングディレクター：Diz Heller

写真：須崎康雄、中川大輔、広瀬周平

ジャケットデザイン：Jess Reuben Wilson、坂野勝美

文章：高篠雅也、広瀬周平、坂野勝美

英訳：坂野勝美、英訳校正：Diz Heller

レイアウト構成：Barbara Papadopoulos